ハンセン病問題学習

Theme

差別の連鎖を断つ

ーハンセン病問題から学び，伝えるー

盛岡中央高等学校・盛岡中央高等学校附属中学校

特命教頭　延 和聰（のぶ かずとし）

National Institute for
School Teachers
and Staff Development

独立行政法人教職員支援機構

ハンセン病問題に関する国の動向

①

毎年, すべての小・中・高等学校に対して,
文部科学省, 厚生労働省, 法務省から

「ハンセン病に関する教育の更なる推進について」

が通知されています。参考にしてください。

ハンセン病問題に関する国の動向

②

2025年6月, 国の

「人権教育・啓発に関する基本計画」

が23年ぶりに改訂され, 国の人権課題として, 女性, こども, 高齢者, 障がい者, 部落差別（同和問題）, …等々と並び,

「ハンセン病患者・元患者及びその家族」

が明記された。

ハンセン病問題に関する国の動向

③

現在, 国は, ハンセン病問題に関する
歴史や経過, 被害の実態を踏まえた
適切な人権学習につなげるため,
次期 **学習指導要領** への記載 も含め,
必要な見直しを行う方向で検討を進めています。

ハンセン病回復者が暮らす, 岡山県の

長島愛生園

を中心に約30年間, ハンセン病問題から学び続けてきた



ハンセン病問題学習 / 差別の連鎖を断つ

差別が拡大して, 学校でのいじめやインターネット上での誹謗中傷などが多く報じられる昨今,
また, コロナ禍を経て, 人とのふれあいが少なくなり孤独が深まる社会状況や, AIの急速な発達, そして,
戦争や紛争の絶えない世界情勢の中, 児童・生徒が

自分も他者も大切にし,
勇気と希望を抱いて
毎日を送るために,
この学習は, 極めて重要。



ハンセン病問題学習 / 差別の連鎖を断つ

どうすれば, 児童・生徒が主体的に
未来を差別のない
「共に生きる社会」



とすることができるか。
みなさんといっしょに
考えます。

「共に学ぶ」ということ

～差別に向き合う視点～

＊前任校で長年

ボランティアと人権・平和について研究をするクラブの顧問



1997年

長島愛生園への訪問が

数日後に迫ったある日,

高校3年生の

マリコさん（仮名）　が職員室で泣きながら……

差別の連鎖を断つ / 「共に学ぶ」ということ

マリコさんが職員室で泣きながら……

長島愛生園に行きたいけど行けません。
母の友人の看護師に
『うつるから行かせちゃいけん』
って言われて……
私, 事前学習で学んだ通り, 療養所の入所者は, みんな病気は治っていて, 目に見える障がいは後遺症だと母に話したんです。だけど……

差別の連鎖を断つ /「共に学ぶ」ということ

私はその時, 彼女が大学生になったら,
今度は自分の意志でいっしょに愛生園へ
行くことを約束

約1年後……
大学生になったマリコさんは, 仲間と共に
入所者の金叅九（キム テグ）さんの部屋にいました。
彼女は泣きながら, 高校時代には来られなかった
理由を金さん伝え,「今日学んだことを母に伝えます」
と言いました。

差別の連鎖を断つ /「共に学ぶ」ということ

金恭九さんが答えました。

お母さんもつくられた差別の犠牲者なんだよ

「今日の学びをお母さんに伝える」って言う

あなたをうれしく思う。ありがとう。

＊　マリコさんから：相手に向き合う誠実さ
＊　金恭九さんから：差別は社会構造の中でとらえること
　　決して人を憎まないこと

※「差別の現実から学ぶ」「生徒から学ぶ」

という視点を授けてもらった。

差別の連鎖を断つ / 「共に学ぶ」ということ

人権や平和の問題を学ぶとき

×教員は「教える」

×生徒は「教えられる」

謙虚に「共に学ぶ」関係

「差別のない“共に生きる社会”」

の構築に最も大切な視点

教育の加害責任を自覚する

ハンセン病問題は終わっていない
私たちはこの問題の「当事者」

教員は, 国による誤った絶対隔離政策に
加担した加害責任を自覚する必要がある。

現在もある厳しい偏見差別をなくすため
立場を超えて連帯し,
全力を尽くす必要がある。

差別の連鎖を断つ / 教育の加害責任を自覚する

ハンセン病となった者たちは……

自由, 平等, 古里, 家族,
子どもをつくる権利（断種, 堕胎）
名前, 人格, 希望, 尊厳, 命　すべてを奪われた

その家族は……
つくられて, 拡大した偏見差別から
ハンセン病となった肉親の存在を
ひた隠しにすることを強いられた

明かせば, 愛する者が去って行った

回復者は語る

小学６年生だった。
病気の診断結果を渡すと担任が豹変した。
『汚い病気』と棒で打たれ『二度と来るな』と
学校を追い出された。 机と椅子は焼かれた。
本当に怖いのは病気ではなく，この国の社会。
差別の芽は私たちの心の中にある。

回復者の妹さんのこと

中学生の妹は病気じゃないのに
学校から『来なくていい』と言われ,
卒業証書ももらえなかった。
私が病気だから, 妹も病気になるはずだと
まわりはみんな, 妹を避けた。
便所掃除のときには, 排泄物を手ですくう
いじめまで受けた。
妹はこのいじめを約70年間, 誰にも言えんかった。
自分のことより
妹が受けたいじめと差別はどうしても許せんのよ。

別の家族の悲痛な声

学校の帰り道に石を投げられることは
しょっちゅうあった。

ある日……
先生が学校の階段で私を突き飛ばし
『もう来なくていい』
という言葉を投げつけた。

差別の連鎖を断つ / 教育の加害責任を自覚する

熾烈な差別を体験すれば, 児童・生徒は

人を信頼し, 人を愛することを恐れるようになる

苦労を重ねてきた家族の中には

怒りの矛先を肉親に向け,

「死ね」と言ってしまったと

吐露した人もいる。

2019年6月28日
ハンセン病家族国家賠償請求訴訟

家族への重大な差別の原因が
国の誤った絶対隔離政策にある
と国の責任を認めると同時に

社会の差別をなくすには
教育の責任が大きいとも指摘



熊本地方裁判所

かつて学校で児童・生徒を差別し,
見て見ぬふりをした教員は

「私だったかもしれない」という自覚が必要

差別の連鎖を断つ / 教育の加害責任を自覚する

2014年 ある公立小学校の授業

教員が（過去の差別事象を説明する中で）

「ハンセン病は体が溶ける病気」などと誤った説明

児童が感想文に
「怖い」「友達がかかったら離れておきます」

「差別の連鎖」が教育の中で再生産されている事例

これは氷山の一角……

差別の連鎖を断つ / 教育の加害責任を自覚する

教員が, 過去の誤った知識に基づいて

一方的に「ハンセン病 ”を” 教え込んだ」

新たな差別を生み出さないためにも

教員は児童・生徒と「共に学ぶ」

という謙虚な意識が何よりも大切



ハンセン病問題から学び, 伝えるということ

差別 は人の心の中で生まれるものであるから

人の心の中に **“人権のとりで”** を

築かなければならない

（ユネスコ憲章に準じて）

どうすれば人の心の中に **人権のとりで** を

築くことができるか

差別の連鎖を断つ / ハンセン病問題から学び, 伝える

「ハンセン病についての正しい理解」

「ハンセン病差別による被害を知ること」だけではダメ

いざ目の前でいじめや差別が起きたとき

知識だけでは無力

大切なのは,

心の中に「人権のとりで」をつくる

偏見差別を見抜く目と

それに対してNo!と言える感性を育むこと

「ハンセン病問題から学ぶ」とは……

児童・生徒が実際に, いじめや差別に遭遇したとき
「やめようよ」と声を上げる人

コロナなど病気が治った仲間を
「待ってたよ」と笑顔で迎えることができる人

であってほしいと願っているはず

差別の連鎖を断つ / ハンセン病問題から学び, 伝える

×「ハンセン病 ”を” 学ぶ」

教員も児童・生徒も共に, ハンセン病問題

「から」 差別の醜さや愚かさを学び,

自分と重ねて, 己のあり方を問う。

厳しい差別を生き抜いた回復者や家族の

生きざまから人間の強さややさしさを感じとる。

そうした学習であれば, きっと……

差別の連鎖を断つ / ハンセン病問題から学び, 伝える

児童・生徒は自分自身の選択によって,
差別に対して **No！** という声を上げて

いじめや差別に悲しみ苦しむ人々と
「共に生きる」 人になることができる

児童・生徒のその選択にこそ
「差別のない社会」 の実現
という希望を抱くことができる

差別の連鎖を断つ / 「らい予防法」と「無らい県運動」

ハンセン病問題をめぐる

歴史的経緯と教育の課題

つくられた差別

『らい予防法』と『無らい県運動』

ハンセン病はかつて「らい（癩）」と呼ばれ,
慢性の感染症でありながら, 強い伝染病と誤解され
忌み嫌われてきた歴史がある。
現在の日本では完全に克服され,
この病を患った人は **「回復者」** などと呼ばれる。

差別の連鎖を断つ / 「らい予防法」と「無らい県運動」

戦前, 国は **「癩（らい）予防法」** を制定

「恐ろしい病気」 と喧伝, 患者を地域社会から

あぶり出し, 療養所に **強制収容** した

当時の専門医も（強制収容と厳しい隔離政策が）

正しい社会防衛であると主張

→ **国は偏見差別を拡大**

※この法律の下では原則, 療養所から出られず, 家族や古里に

帰ることは許されなかった → **絶対隔離政策**

差別の連鎖を断つ / 「らい予防法」と「無らい県運動」

つくられた差別 におびえた市民も
官民一体となって患者を摘発する
「無らい県運動」 の中で
患者と家族を地域社会から排除した



差別の連鎖を断つ / 「らい予防法」と「無らい県運動」

国の政策は戦後も基本的には変わらず……

「無らい県運動」は1960年代までつづく

1940年代末～ 特効薬治療がはじまったが……

基本的人権の尊重を定めた

日本国憲法下の1953年, 新しく

「らい予防法」制定

強制隔離政策は戦後も継続し

1996年にようやく廃止された。

国の過ちは重大。ただ……

教育界や私たち市民も,

国の政策に無自覚に加担し, 患者やご家族に

「人生被害」を強いてしまった

「当事者」だという自覚が

ハンセン病問題学習の土台として必要

差別の連鎖を断つ / たたかいの歴史から学ぶ

どう学ぶか……

たたかいの歴史から学ぶ ことが大切

大切にしなければならない

たたかいの歴史 が2つある



差別の連鎖を断つ / たたかいの歴史から学ぶ

ひとつは

療養所の入所者たちが
自らの尊厳をかけて展開してきた
戦前から今日までのたゆまぬ運動

（全国ハンセン病療養所入所者協議会＝**全療協** 運動 等）



差別の連鎖を断つ / たたかいの歴史から学ぶ

2018年5月9日（邑久長島大橋架橋30周年の日）

顧問を務めたクラブの生徒たちが, 小中学生向けの

「長島愛生園ガイドマップ」を作成

※学んだことを主体的にどう伝えるかという実践



差別の連鎖を断つ / たたかいの歴史から学ぶ

表紙には1988年5月9日に架けられた

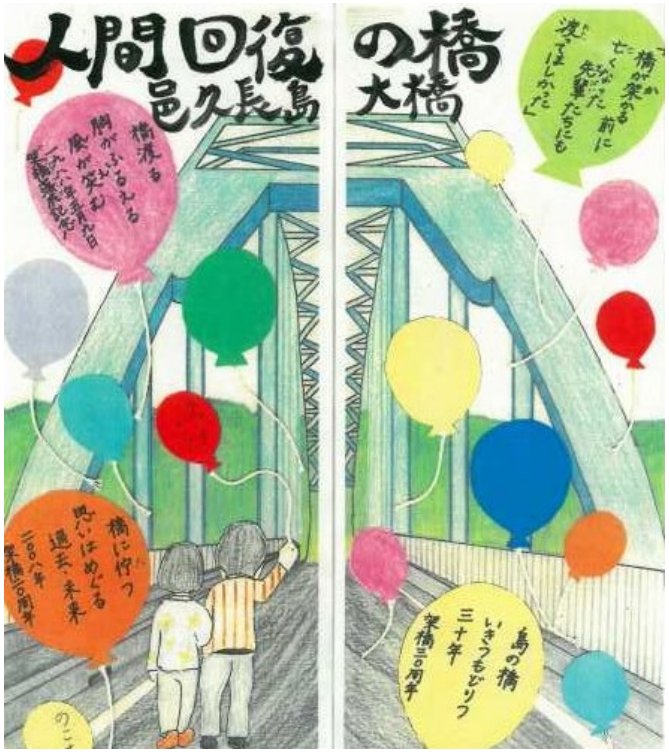
「邑久長島大橋」

入所者たちの17年間の架橋運動は
自由と平等と自らの尊厳をかけた
国とたたかった歴史

入所者たちはこの橋を

「隔離の必要のない証」

として誇り,



「人間回復の橋」 と呼ぶ

生徒たちはこの運動の熱と誇りに共感し,

後世に伝えたいという思いを表紙に込めた。

もうひとつ……3つの 国賠訴訟

「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟(2001)

ハンセン病家族国家賠償請求訴訟(2019)

「菊池事件」国家賠償請求訴訟(2020)

原告の方々が命がけで

国の責任を明確にしてきた運動から

勇気と希望を学びとることができる

差別の連鎖を断つ / たたかいの歴史から学ぶ

抑圧や差別に抵抗し，
尊厳を守り抜く姿は，
被害体験の悲嘆を超え，
児童・生徒の
勇気と希望を育む
力をもつ



前任校では…この問題から勇気と希望を学んだクラブの
高校3年生 が 中学1年生 を対象に授業

→ カリキュラムに位置付けてとても人気

差別の連鎖を断つ / たたかいの歴史から学ぶ

国賠訴訟の原告だった上野正子さんが
本名を取り戻す意味を考える。

正子さんは長年, 家族との関係を断絶するために
「八重子」という偽名を強いられていた。



4時間の授業
その 第３時間目
（一部）

差別の連鎖を断つ / 正子さんの本名をとりもどすたたかい

2001年5月11日,

『らい予防法』が憲法違反と裁かれ,

正子さんたちが裁判に勝ったその時,

正子さんは

こう語ったんだ。



差別の連鎖を断つ / 正子さんの本名をとりもどすたたかい

私の名前は八重子ではありません。
わたしの名前は上野**正子**です。
父が**“正しく正直に生きよ”**という思いを
込めて**“正子”**と名づけてくれました。



差別の連鎖を断つ / 正子さんの本名をとりもどすたたかい

でも『らい予防法』によって名前も
奪われていました。しかし, 今日から堂々と
本名の『**上野正子**』を名乗ります。
だから今日が私の『**第二の誕生日**』です。



差別の連鎖を断つ / 正子さんの本名をとりもどすたたかい

正子さんの部屋にはこんな額がある

『光りを求めて扉を開かん』

仲間と共にたたかった正子さんにとって，

裁判は，**『本名に戻って，人間として本当の自分を取り戻すこと』**だったんだね。



個人の幸せを追求する権利を守るはずの国が
「らい予防法」で，個人から
その権利を奪ってしまった。

国の責任と，私たち市民の加害責任を
明確に学ばずして
ハンセン病人権学習は成立しない。

差別の連鎖を断つ / たたかいの歴史から学ぶ

児童・生徒も教員も共に

「ひとを大切にする」ことを胸に刻む

「社会と向き合うことの大切さ」を自覚する

「国家と個人の関係」を相対化する

この問題 **から**, いじめが見え, 国が見え

市民や地域が見え, 己と向き合い, 己を知る



いじめや差別はどうすればなくなるか
国家や社会はどうあるべきか
自分たちは市民として
ひとりの人間としてどう生きるべきか
を自覚的に考える

これこそが本来の「主権者教育」

差別の連鎖を断つ / 「かわいそう」という同情の打破

「かわいそう」という同情を打破する必要がある

2003年, 熊本県黒川温泉のホテル
療養所の入所者に対する宿泊拒否事件が発生
＊入所者はその差別に抗議の声を上げた
→ 批判の手紙やファックスが殺到

＜当時の新聞記事 / 2003年11月19日 西日本新聞＞

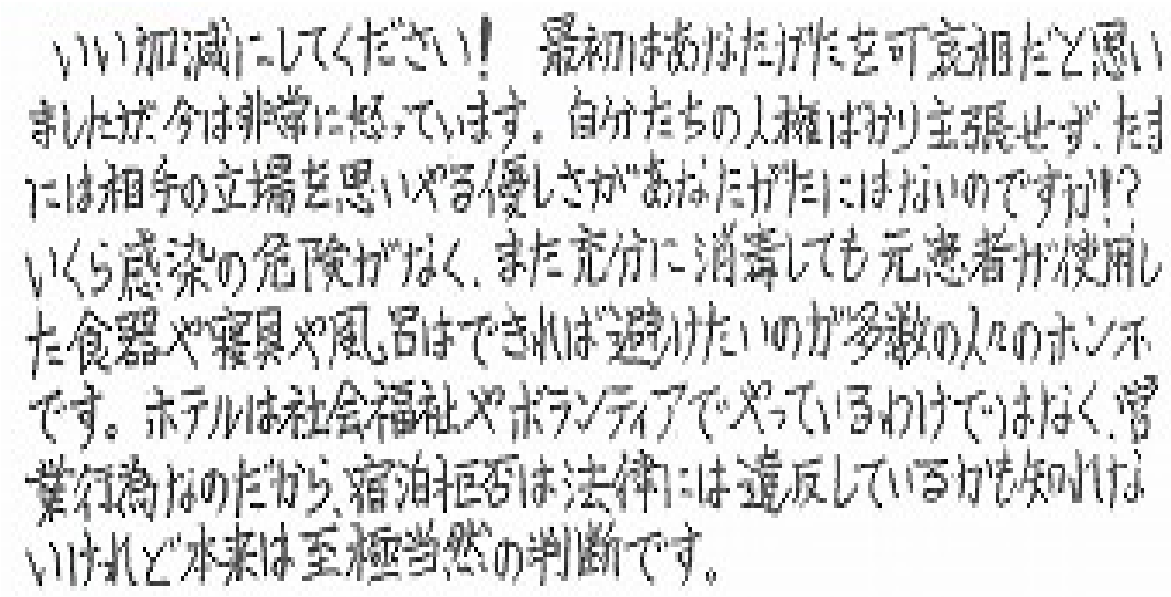
ハンセン病元患者を拒否 －黒川温泉のホテル－

「『宿泊客に迷惑』人権侵害で調査」

差別の連鎖を断つ / 「かわいそう」という同情の打破

批判の手紙（一部）

**いい加減にしてください！最初はあなたがたを
可哀相だと思いましたが, 今は非常に怒っています。
元患者が使用した食器や寝具や風呂は
できれば避けたいのが多数の人々のホンネです。**


いい加減にしてください！ 最初はあなたがたを可哀相だと思いましたが, 今は非常に怒っています。自分たちの人権ばかり主張せず, たまには相手の立場を思いやる優しさがあなたがたにはないのですか!? いくら感染の危険がなく, また充分に消毒しても元患者が使用した食器や寝具や風呂はできれば避けたいのが多数の人々のホンネです。ホテルは社会福祉やボランティアでやっているわけではなく, 営業行為なのだから, 宿泊拒否は法律には違反しているかも知れないけれど本来は至極当然の判断です。

実際の批判の手紙

**「特集 ハンセン病問題学習資料集」
（教育総研ニュース
No.24 2017.4）より**

差別の連鎖を断つ / 「かわいそう」という同情の打破

「かわいそう」な人たちは
おとなしく黙っていれば同情するが,
人権侵害に対して抗議の声を上げると排除する

※この差別性をどう打破するか

→ 前任校の高校1年生が書いたエッセイに学ぶ



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



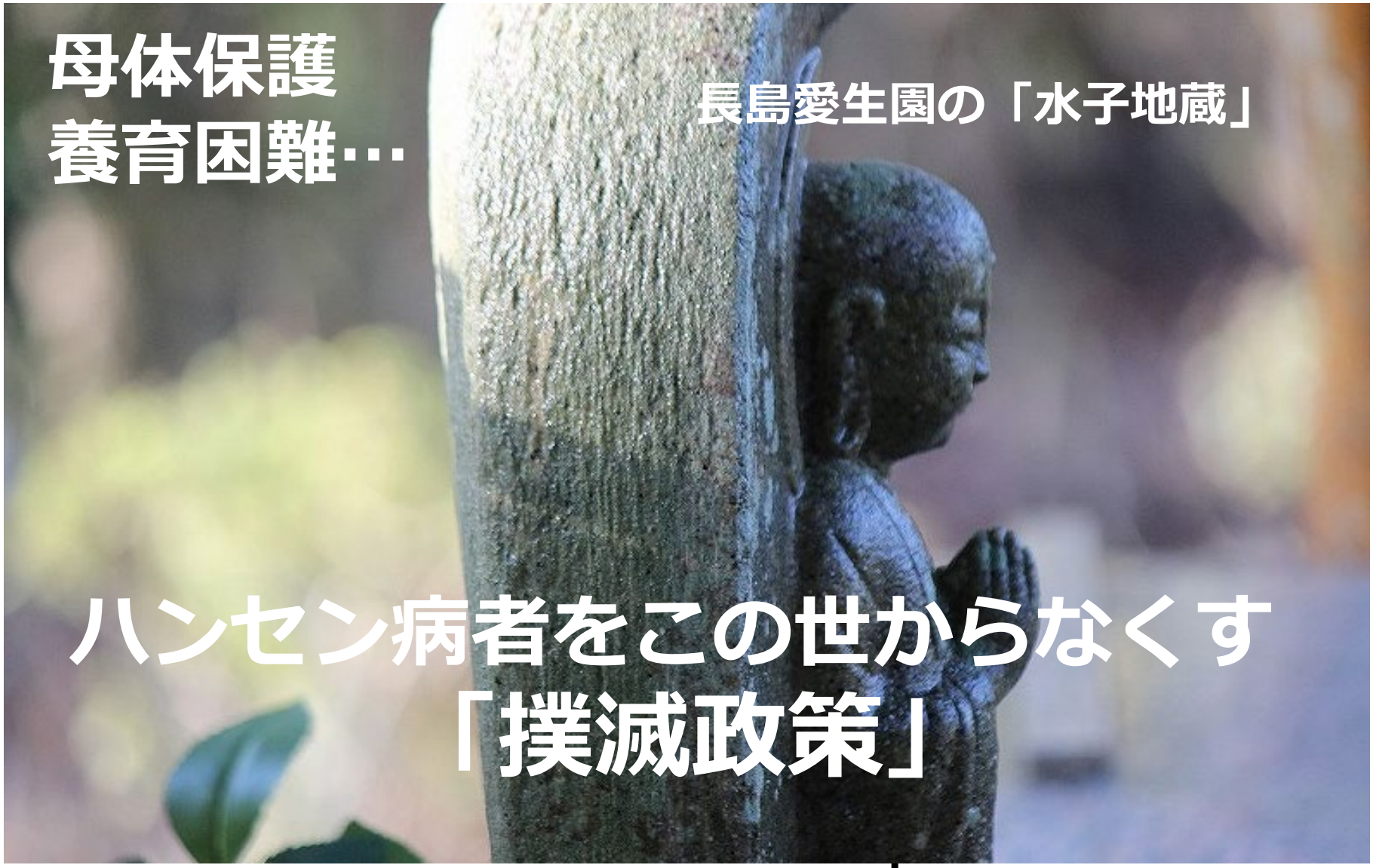
差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



沖縄愛楽園の供養碑

「救う」意識が強いほど
そのひとのために
よかれと思って
やっている自分が
「正しい」と
思い込んでいる

差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 高校１年生のエッセイ「太郎」



差別の連鎖を断つ / 「つくられた差別」をつくり直す

「らい予防法」と「無らい県運動」
を中心として差別はつくられ, 再生産されてきた
教育もそれに加担した

差別の罪は人が人を信頼しえなくなること

差別に抗するよりどころとしての
「人への信頼」を学校の中にいかに創出できるか

「やっぱり人ってすばらしい」「仲間っていいな」
と思える場面をどれだけつくりえるか
教育や学校の存在価値であり, 教員の使命

差別の連鎖を断つ / 「つくられた差別」をつくり直す

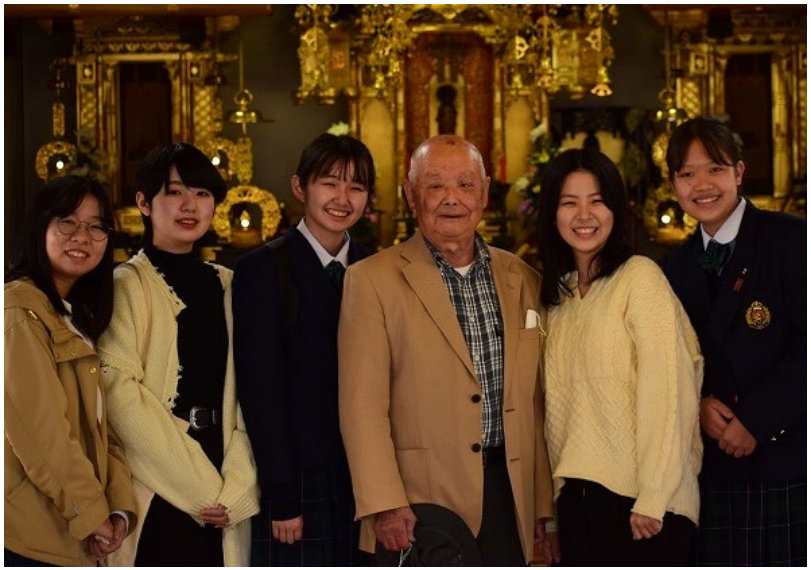
差別や戦争ははじめから「ある」わけではない

政治的に**「つくられる」**ことがある

「らい予防法」は, その象徴的な例

つくられた差別はつくり直すことができる

長島愛生園の入所者が, コロナなどの問題にも



通ずることばを残している

差別の連鎖を断つ / 「つくられた差別」をつくり直す

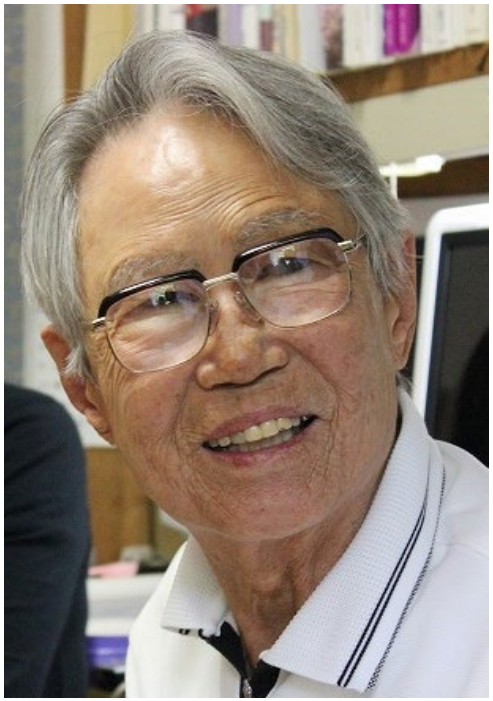
ハンセン病はなくなることがあっても
どのような別の“悲しき病”に
人間はみまわれるかもしれない
だが **“悲しき政策”**は
なくすことが
できなくてはならない
それは
人間自身の手になる
ものであるからである



差別の連鎖を断つ / 「つくられた差別」をつくり直す

2016年11月, 約20年間, 生徒たちを愛してくださった
長島愛生園の入所者 **金恙九** さんが亡くなった

葬儀で読み上げられた最後の弔電は
1997年, 母親から
「行ってはいけない」 と言われ,
職員室で泣いたマリコさんからのもの



故 金恙九 さん

**「金さんからいただいた人としての
やさしさをずっと大切にして,
いま, 自分の子どもたちに
金さんのことを伝えています」**

人間のすばらしさ

に出会って学習する本当の意味を
金恙九さんとマリコさんが教えてくれた

ああ, 金さんはきっとあの笑顔で喜ばれているだろうな
差別の連鎖はきっと断つことができるよな
と, 私は心の中でつぶやいた
「ハンセン病問題から学び, 伝える」
教育の価値に改めて気づかされた瞬間

みなさんといっしょに

差別の連鎖を断つ

ための「一歩」を踏み出せるなら幸甚です



1997年夏
金恙九さんと
生徒たち